

目指せ、ロボコン全国大会！

～ ロボット教室 ～



思い通りにロボットが動き大喜び

2月3日、フェライト子ども科学館でロボット教室が行われ、市内外から10組の親子らが参加しました。

教室では、秋田県立大学石井先生が講師を務め、県立大生3人がサポートするなかで、お茶運びロボットを作製。参加者はテキストを見ながら部材を選びロボット本体を作ると、次にパソコンを使ってプログラミングし、進む、回転するなどを組み合わせて自分の好きな動作でロボットを動かしていました。最後に石井先生は「今回の教室は基礎中の基礎。これを踏まえてロボコン全国大会を目指してみてください」と話し参加者を激励しました。

健康の秘けつは歩くこと

～ 室内ウォーキング教室 ～

2月3日、象潟公民館で室内ウォーキング教室が行われ、市民19名が参加しました。この教室は冬期間の運動不足解消や美しい歩き方を学ぶことを目的に行われており、スポーツ推進員が指導にあたりました。

参加者らは、普段何気なく行っている「歩く」という行為を改めて学ぶことで、ウォーキングの基本や奥深さを体感していました。実技では、腕の振り方や、姿勢などのほか、呼吸なども意識して行われ、一步一步動作を確認しながらウォーキングを楽しみ、爽やかな汗を流していました。



歩くこと、それは健康への第一歩

41本の大タラを奉納

～ 掛魚まつり ～



迫力ある大タラが町内を練り歩く

立春の2月4日、元禄年間から350年以上続く伝統行事「掛魚まつり」が行われました。通称「たらまつり」とも呼ばれ、各漁船で取れた一番大きなタラを金浦山神社に奉納しました。一昨年から一般の方からの参加も受け付けており、計41本もの大タラが奉納されました。

竹ざおに吊るした大タラを2人1組で担ぎ金浦漁港を出発。金浦神楽を先頭に神社まで町内を練り歩きました。神社参道は、迫力ある大タラをひと目見ようとする人たちが埋め尽くされました。また勢至公園ではタラ汁が販売され、多くの観光客が旬の味を堪能しました。

郷土の偉人に思いを寄せて

～ 第46回白瀬中尉をしのぶ集い ～



金浦海洋少年団が掲げる日章旗を先頭に行進

1月28日、第46回白瀬中尉をしのぶ集いが行われ、市民ら約450人が参加しました。

明治45年のこの日、白瀬中尉が数々の困難を乗り越え、南緯80度05分、西経156度37分に日章旗を掲げ、見渡す限り一帯を大和雪原と命名しました。その偉業に思いを馳せ、南極広場から白瀬中尉の生家浄蓮寺までの2.5kmを雪中行進し、墓前で黙祷を捧げました。引き続き金浦公民館では、国立極地研究所川久保守氏による「南極をもっと知りたい」と題した講演会が行われ、郷土の偉人が目指した南極について理解を深めました。

飲んで食べて飲食券が当たる！

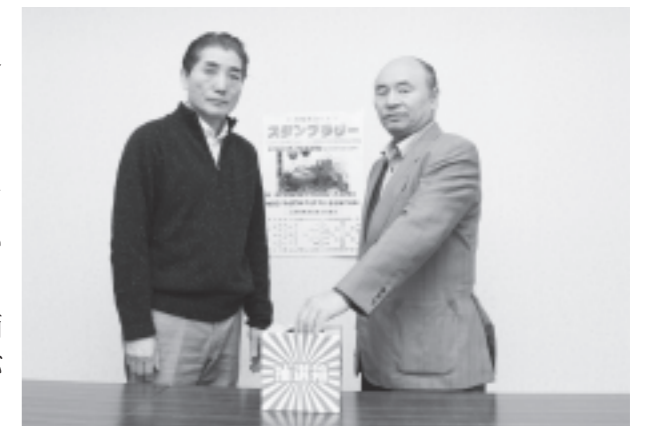
～ 仁賀保飲食店組合主催・スタンプラリー ～

年末年始にかけて、仁賀保飲食店会が主催するスタンプラリーが開催され、1月28日に参加者の中から20名に5,000円分の飲食券が当たる抽選が行われました。

このスタンプラリーは同組合に加盟する18店舗の中から参加者が4店舗を選び、期間内に飲食して回るというシンプルなイベント。今年は3回目で120人が参加。

抽選では組合役員が見守る中、作内商工会長が抽選箱から20名を抽出しました。加盟店が出資する飲食券が見事に当たった方の発表は、各店舗で行われています。

まだ確認していない方は加盟店にお急ぎください。



今年初の「福」は誰の手に？

「食」を通して心を繋ぐ

～ 第7回国際料理交流会 ～



美味しい料理を作る！その気持ちに国境線はない

2月2日、象潟構造改善センターでにかほ市国際交流協会主催の国際料理交流会が行われ、ALTや、市民ら約60人が参加しました。会場の調理台には色とりどりの野菜や、普段目にすることがない輸入食材が並び、それを材料にアメリカや中国などの料理を作りました。

料理が出来上がり試食が始まると、ウマイ！という歓声や普段味わう機会がない料理を、名残惜しそうに頬張る姿が見られました。参加したALTは「料理は上手にできた。レシピは簡単なので是非作ってほしい」と語り、各国の料理を通して心の交流を図りました。